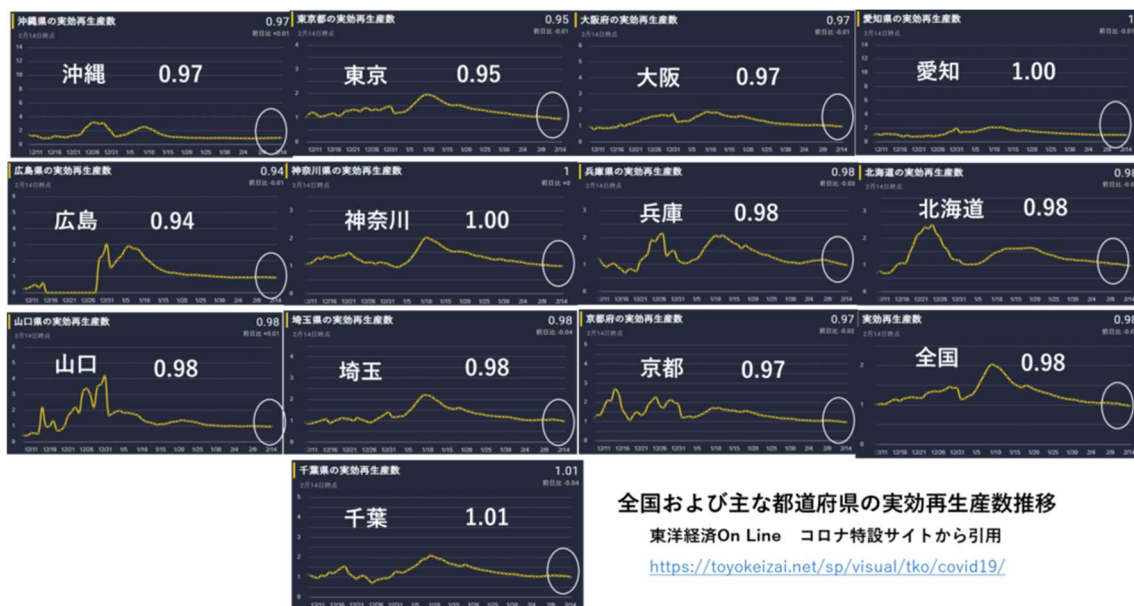


実効再生産数が 1.0 を下回りましたが・・

- 水曜日 - 16 2 月 2022

以前から近々東京都の実効再生産数が 1.0 を下回るとお知らせしていましたが、2 月 12 日に 1.0 を下回りました。これに関連してもうひとつお知らせがあります。それはずっと引用させてもらっている東洋経済の実効再生産数の計算式が変更になり、平均世代時間(感染者が新たに感染者を生み出す間隔)が 5 日間から 2 日間に変更になっていました。となるとこれまでのデータは比較ができないのかというそのようなことはなく、前回説明したように実効再生産数の推移曲線の形はかわらず山の高さが変化しただけとなります。

話が元に戻しますと、ずっと東京都の実効再生産数をフォローしてきましたが、2 月 12 日に 1.0 を切りました。これは単に三連休だったからということではなく、感染者数が連続して前の週を下回っているからです。言葉でいうだけでは実感がわかないでしょうから、新しい計算式に基づくグラフを東洋経済のサイトからお借りしてお見せすることにします。



前回ご紹介した時と山の高さが変わりました。おおよそ今回の高さは前回の 5 分の 2 になっていると思いますが、形そのものは変わりません。2 月 14 日現在の実効再生産数の値は、千葉の 1.01、愛知と神奈川の 1.00 を除いてすべて 1.0 を下回っています。

実効再生産数が 1.0 を下回るということは、新規感染者の数が次第に減少することを意味しますが、一方で沖縄、広島、山口の 3 県を見ると、沖縄が 1 月 20 日、広島が 1 月 30 日、山口が 2 月 7 日に 1.0 を下回っており、沖縄ではそれから 2 週間以上経過していますがいまだに 1.0 に極めて近い数字であることが気になります。そう簡単に感染者数は減少してくれないとみるべきでしょう。

平均世代時間や報告間隔に関係なく、実効再生産数が 1.0 を下回ったことは間違いありません。しかしこれで簡単に収束とはいかないことは、沖縄など先行した 3 県のその後が示しています。